

歯科・口腔外科病棟の 東病棟 3 階への移転を迎えて

口腔生命科学系列・教授 高木 律 男
(顎顔面口腔外科学)

ご存知のように、医歯学総合病院の二期工事が昨年 8 月末頃に終了し、本年 1 月から歯科の病室も加えて、新手術室とともに稼動し始めました。ハード面での充実は、一期工事(西病棟)、二期工事(東病棟)と進むにつれて、時代の流れを感じさせられます。三期工事(中央診療棟)、四期工事(外来棟)が終わる頃には、私も退職する時期になるのかと考えると、このように歴史的事実を歯学部ニュースという貴重なページをいただき記録できることすら光栄に思えてきます。特に、今回は病棟とそれに伴う手術室の移転も経験したため、口腔外科・歯科麻酔科のスタッフにとっては二期工事と三期工事がまとめて終了したような形になりました。気分的には医科のシステムに合わせるべく「郷に入らば、郷に従え」という言葉を心の中で繰り返しながら、システムに慣れるのに精一杯です。そして、スタッフ全員の行動範囲は、以前とは比較にならないほど格段に広がりました。今後外来棟が完成するまでは、この状態が続くこととなります。この行動範囲を移動するのは人間だけではなく、全ての資料、例えばカルテ、レントゲン、研究用模型などにも及び、勝手に歩いて行って欲しいのですが、必要な時に必要な場所がないことがどれ程大変か、その移動のために要する時間、マンパワーの不足は計り知れず、最終的に医療スタッフの負担にとどまらず、患者様に御迷惑をかけることにならなければ良いと心配する毎日です。

さて、現在進行している医歯学総合病院の完全統合は、近年の医学全般特に臨床医学の急激な進歩、先端医療の複雑化と情報開示、医療安全の機

運の高まり、少子高齢化社会の到来、不況・合理化に伴う公務員の削減などの社会情勢の大きな変化に対応すべく、より緊密な連携による全人的医療の提供と更なる医療ニーズの変化に的確に対応できるよう平成 15 年 10 月より始まりました。今回、平成 18 年 1 月より歯科/口腔外科病棟が新築された東病棟 3 階に移転しましたが、それまでには多くの方々のご努力があったことは言うまでもありません。私も統合が本決まりになる頃と前後して、概算要求を行う資料作りとして何度も新病棟の設計図の線引きをやり直したことに始まり、歯科/口腔外科病棟が東病棟に組み込まれることを前提に、病棟移転に伴う準備のための WG が立ち上げられ、歯科病棟を利用する関係で WG の音頭とりを仰せつかりました。病棟が移転することはとりもなおさず、病院機能の多くがハード・ソフトの両面で統合することを意味し、各部署の代表に医科の関連施設とのすり合わせをお願いして、それぞれの進行状況を宮崎副院長に御指導いただきながら、できるだけ問題が生じないようなソフトランディングを目指しました。なお、歯科/口腔外科では、入院施設を利用する患者様の多くが手術前後であることから、病室のみの移転はありえず、医科手術室には無理をお願いして、歯科が優先的に使用可能な手術室 2 部屋を増設していただきました。したがって、WG で御協力いただいた部署には口腔外科はもとより、歯科麻酔科、医療情報部、看護部、薬剤部、事務部、栄養室、放射線室、臨床検査室、病理部および医科との間に新設される予定であった摂食嚥下機能回復部、顎関節治療部、インプラント治療部と多岐にわたるま

した。WGの立ち上げは平成16年9月で、平成17年8月末の東病棟完成を目前に、何回かの意見交換を各部署で行っていただきました。

その後も、病院関係のハード面での変化は著しく、国道116号線の拡張工事の開始に伴う、名物桜の移動、駐車場削減を補償する二層式駐車場の完成、医科手術室内への手術室2室の増設などが次々に進行しました。また、ソフト面でも、事務系の一本化、患者様IDの共通化、カルテの電算化をはじめとする情報システムの本一化、看護部の新設部署への重点配置に伴う看護師、衛生士の配置換えなども大きな変化でした。そして、平成17年12月8日には、東病棟完成による病棟完成記念祝賀会が東病棟12階の会議室で行われ（写真参照）、多くの名誉教授、政界、マスコミ関係者、そして現医学部、歯学部関係者が参加しました。その後、新病棟を見学させていただきましたが、確かに新しい施設は開放感があり、沈みがちな病人

の気持ちや我々医療スタッフの気持ちをも明るくしてくれます。

年末の移転作業は数ヶ月前から少しずつ進められてきましたが、全員で行ったイベントとして、1月からの新手術室での手術を前提に12月28日にはスタッフによる模擬患者を使つてのシミュレーション（写真参照）を実施しました。具体的に、手術準備に至るシステムおよび搬入の動線は大きく変わり、入室引継ぎ、誘導、麻酔導入、リカバリールーム使用、退室引継ぎを歯科麻酔科、看護部、口腔外科の関係者が参加して体験しました。続いて、歯科／口腔外科病棟の移転作業は、12月30日の午後に行われました（写真参照）。移転にあつては病棟担当の旭看護師長さんを中心に、科長、総括医長を初め多くの方が、診療時間外の大切な時間を使って十分に打合せを行いました。そのおかげで、当日は業者との連携のもと比較的スムーズな移転が可能となりました。入院患者様は極力



12月8日、東病棟12階にて記念式典開催



12月28日、新手術室シミュレーション



12月30日、旧歯科病室から東病棟3階の新歯科／口腔外科病棟に移転



少なくしましたが、11名の患者様が残る形になったため、それぞれの患者様に歯科医師、看護師が付き添って移動しました(写真参照)。機材についてはほとんどを業者に依頼しましたが、口腔外科および担当看護師全員が移転に協力し、年末の休みを返上しての移動でした。実際に移動と簡単な整理に要した時間は、午前中の荷造りと午後1時からの移転、移転後の整理を加えると6時間程度でしたでしょうか。病棟が移転作業をする間の急患は、口腔外科外来で対応していましたが、移転後は歯科の事務当直が同日17時15分をもって完全終了。歯科の救急患者様の対応は、救急部を通して行うことになり、連絡先電話番号は025-227-2748に変更となりました。それに伴い、以後の歯科系診療棟（歯科外来棟）への夜間・休祭日の出入りは、新しい玄関である西口および医科外来2階からの連絡路のみとなり、安全管理上パスカードがないと出入りができなくなりましたので、関

係各位には注意が必要でしょう。歯科外来での診療後に急患として受診される患者様には、対応場所が異なりますので、各診療科、事務方からの十分な説明が必要かと思えます。

さて、新しくなった病棟の概要について触れておきます。歯科病棟は、東病棟3階に歯科/口腔外科病棟として、これまで通り40床で移動しました。同じ階には高密度無菌治療部の3床があり、さらに、第二内科の睡眠時無呼吸の睡眠検査を目的とした1床（特A室扱い）が加わり、44床からなっています。個人情報保護の関係で、各階の専門科名は伏せられているので、歯科/口腔外科の入院患者様は、東病棟3階入院という表現になります（実際に全病室の稼働を考える上で、歯科/口腔外科40床という考え方でなく、医歯学総合病院811床という捉え方になりつつあります）。施設としては4つの個室（重症室2部屋、特B室2部屋）と4床部屋が9室の計40床です。処置室には4台



処置室：ユニット4台。外付けバキューム装置、ユニット間の遮蔽カーテンを装備



ナースステーション：歯科医師と看護師が使用。患者監視装置、他の機能が集中

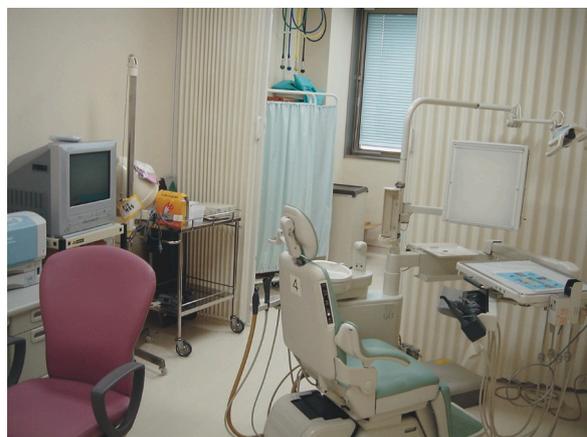
の歯科用ユニットがあり、病棟入院患者様の処置、
歯科急患患者様の対応、および今後医科入院患者
様の歯科治療も含めての稼働が考えられています
(写真参照)。処置室に隣接してナースステーショ
ンがあり、歯科医師と看護師全スタッフがオープ
ンスペースで場所を共有しています。そこに配置
されるコンピュータを初めとする医療監視装置、
電気器材の数はこれまでの何倍にも及び、昨年末
に発生した新潟大停電を考えると電気の大切さと
その供給に対する不安は誰もが感じるのだと思
います。そして、全てがデジタル化した機器での
管理となり、人間としての融通が利きにくいこと
も、私のような昔の人間には辛いところでありま
す。その他に、患者様のアメニティー面はかなり
充実しており、個室、混合部屋ともにそれぞれに
トイレが配置され、病棟全体が広がったとはい
え、患者様の動線はそれほど長くなってすんでい
ます。また、食堂および子供用のプレールームも

以前にも増して、広く明るいスペースとなり利用
しやすくなっています。なお、歯科外来との移動
距離が何十倍にもなり、歯科特有の設備、治療
法を利用することが困難になることが予測されたた
め、歯科独特の検査・診断室（ユニット1台移設）
および技工室も充実させました。口腔外科が今後、
医歯学総合病院各科の中で特色を活かして役割分
担していく上で、どうしても必要な場所と考えて
います。今後、新病室を利用される口腔外科およ
び歯科各科の先生方が、そのあたりを理解して有
効に活用していただけることを期待しております
(写真参照)。

最後に、ハードが整いつつある今、ソフト面
での対応にはまだまだ十分な理解と協力が得られて
いるとは言えません。医療法上の問題や診療空間
での問題、三期、四期工事に伴う動線の複雑化な
ど、ハード面の不備に対するカバーも含めて、そ
れを利用する医療関係者も新しい環境をいかに有



患者様のアメニティー面の充実：食堂(左)と子供用プレールーム(右)



歯科治療面の充実：技工室(左)と口腔機能検査・診断室(右)

効に活用するかを常に考え、医師、歯科医師、事務部、看護部などそれぞれが、これまでの歴史を大切にするとともに、協調すべきところは協調し、患者様にとって実のある統合になることが期待されます。

なお、今回の移転に伴う歯科病室、歯科手術室、歯科臨床検査室および給食施設の閉鎖については、一つ一つそれぞれの思い出が走馬灯のように駆け巡り、時の移り変わりを感じずにはいられていませんでした。それぞれの部署でお世話になった皆様には、歯科病室・手術室と同様に院内・院外の

新しい場所で、健康に留意しご活躍いただけることを祈念しております。

最後に、平成17年12月初めに病棟の移転についての原稿依頼をいただきました。移転において直面する部署に所属する者として依頼を受けさせていただきましたが、原稿締め切りの平成18年1月末までの時期は、移転直後の非常に流動的な部分が多い時期で、歯学部ニュースとして公表される頃には、実際に即した形での対応がなされ、既に全く異なる状況に発展している可能性もあることをお含み置きください。

